



# JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第5号 (1998年11月27日 発行)

## ミクローシュ・ペレーニ、マスタークラス開かれる



10月28日(水)の夕、お茶の水のヴォーリズホールで、ハンガリーの名手、ミクローシュ・ペレーニさんのマスタークラスが開かれました。これは、今年の春、堤剛さんが本人に直にお願いしたもので、カザルスホールのチェロ連続リサイタルのために来日したペレーニさんの空いたスケジュールをいただきて行われたものです。

2人の受講生を見ていただきましたが、その真摯な教える姿勢に感動された方多かったです。会場には、アマチュアの方やチェロの生徒達が数多く参加、ホールが満杯になってしまったほどの盛況でした。会員の皆様のご協力ありがとうございました。以下メール等で、来場者の感想(会員、会員外を含め)をいただきましたので掲載します。

### 受講生と受講曲目

遠藤 真理

シューマン: アダージョとアレグロ

山内 理映

コダーアイ: 無伴奏チェロソナタより

第1楽章 (事務局)

### ペレーニのマスタークラスを聴いて

ペレーニという人は、本当はとても恥ずかしがりやなのだろうという気がします。というのも、公開レッスン開場に入ってくるなり、満員の聴衆に少ししごくりして、照れたような顔をしていたような感じでした。

公開レッスンに入る前に、JCS会長の堤剛氏がJCSの活動について簡単に紹介されたのは、JCS非会員に対してとても有益な情報提供だったと思います。そもそも、公開レッスンを聴いている聴衆の中に堤氏がいるということ自体、『この公開レッスンは何か特別なものだ』ということを感じさせてくれました。

最初の高校生の弾いたシューマンについては、『ボルタメントは少なくした方がよい』とか、『フレーズの捉え方』などについて実演を交えながら、レッスンを進めていました。

二曲目のコダーアイに移ってからは、自国の偉大なる作曲家であるということもあるのでしょうか、彼としては何

としても伝えたいものが山ほどあるという感じで、受講者に弾かせるよりも自らたくさん弾いてくれました。受講生も非常にレベルが高くて、ずいぶんよく弾きこなしている印象を受けましたが、ペレーニにとっては直したいところが数多くあったのです。普通公開レッスンだと楽器を持たない先生も多い中で、とにかく弾いて理解させるというスタイルだったのは、その前日のコンサートに行けなかった私としてはうれしかったです。

彼の演奏を聞いていて、「きっとこの人は商売っ気がない」今時珍しい演奏家なのではないかと思いました。地味ではあるが味わい深くて、良い音楽を奏でるすべを知っている人です。演奏家というよりも思索家という印象で、楽曲の分析を奥深く行っているからこそ、このような指摘になるのだというよう、説得力のある演奏です。

コダーアイの曲にあれほど歌心が必要だと知りませんでした。彼はレッスンの時間が余りにも短いので1楽章で終わってしまい、とても残念そうで、「2、3楽章は全く違う曲想だ」とだけ言っていましたが、彼の演奏を1楽章のうちのほんの一部であれ、聴いてしまったので、全曲を通して聴いてみたい、と思ったのは私だけではないでしょう。

当日の会場には知り合いが数多くいましたが皆、ペレーニのコダーアイが聞けて幸せそうでした。

三木 隆二郎 (Ryujiro MIKI)



大学で教官としての勤務のかたわら地元のアマオケに入ったり、個人レッスンを受けたりして懸命にチェロに取り組みながらも、10年たっても一向に

うまくならない落ちこぼれゴーシュ（因みにゴーシュgaucheとはフランス語で左という意味と同時に不器用なという意味もあるので、宮沢賢治も粋なネーミングをしたものです。）には当日のレッスン内容は次元の違う雲の上の問題とはいえるとてもすばらしい体験でした。

出演された二人の生徒の技術は私からみればそれだけであこがれの的ですが、ペレーニさんが指導をすると一つ一つのフレーズがまた異なった輝きを帯び、聴くものに訴えかけてきます。それぞれの曲には作曲者が何を訴えたいかという意図が隠されているはずである、それを発見して聴衆に伝えるのが演奏者の役目であり、またその過程をたのしむべきである、喜びをもって演奏すべきであるというメッセージを受け取りました。

演奏をいかに組み立てて行くべきかという、いわば舞台裏を覗かせてもらうことによって音楽の鑑賞の深みが増していくことは疑いのないことです。その意味ではこのようなマスタークラスに出席することはチェロを演奏しない人にとっても尽きることない興味を感じさせるものであろうと思われます。次の機会も楽しみにしています。

山田光義（非会員）



今回の受講者は非常にレベルが高く、一体どこを直すのだろうと思っていると、見る方が見ると、やはり違うのですね（当たり前かな）。だから私はマスタークラスを見学するのが好きなのですけど。

しかしひペレーニさんは、皆さん口を揃えて言いますが、本当に何と簡単に弾くことか。カザルスの言葉に「皆さんは私のことを『鳥が空を飛ぶようにチェロを弾きますね』と言うが、飛ぶためにどれだけ努力をしているか知らないでしょう」というのがありますが、ペレーニさんも地道な練習で技術を築いたのでしょう。

おそらくペレーニさんも、昔はどなたかのマスタークラスをたくさん経験されて、今新しい人に受け継いでいくわけです。この繰り返しがチェロの歴史となっていくことを考えると、チエ

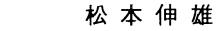
ロが好きな私としてはたとえ見学であってもその流れに関わることができよかったです。

これを書いています今、日米野球や大相撲九州場所が開催されています。野球界・相撲界はTVに映る彼らを頂点として、底辺のアマチュアまで巨大な人口ピラミッドが構成されています。私たちは、努力によって一流の実力を身につけた「頂点の人々」による高いレベルのショー（敢えてショーと書きますが）を楽しむことができるわけです。

チェロ界はこれらと比べると非常に小さい人口ピラミッドですが、ペレーニさん達、一流のチェリストの演奏や人間性に接することによって得られるものは、野球や相撲のそれ以上だと思います。

アマチュアチェリストの自分としては、一流の人たちへの期待ばかりではなく、底辺の広がりやJCSの発展によるピラミッドの拡大を心待ちにしています。そして、自分が今以上に楽しめるように自らのレベルアップを目指しながら、チェロの楽しさを周りの人々に広げて、一人でも多くの人と一緒にチェロを楽しんで行きたいと思っています。

石島栄一



ペレーニの演奏を聴いたことはなかったのですが、レッスンを聴いていいっぺん気に入ってしまいました。それにあの笑顔がいいです。彼の音楽性がまさに現れているように思いました。

松本伸雄

昨日、ペレーニのマスタークラスを聴いてきました。マスタークラスをその場で聴いたのは初めてでしたがとても楽しめました。病み上がりで、体調は良くなかったのですが、頑張って行った甲斐がありました。シューマンのアダージョとアレグロではフレーズのこと、ボウイングのこと（このフレーズをワンボウイングで弾くことに喜びを感じなさい）とかいう発言が参考になりました。コダーイの無伴奏ソナタ（1楽章）では楽章を通してのテンポや、メロディーラインを意識して重音で聞かせたい音を考えることなど、改めて勉強になりました。どちらも、目の前で弾いているのを見ているだけで楽しい曲でした。

(C.U)



◆  
今日、ペレーニのマスタークラスを聴いてきました。シューマンのアダージョとアレグロ、コダーイの無伴奏ソナタの2曲でした。





## リレーエッセイ 第1回 河野文昭

### バッハの無伴奏組曲 演奏近況

どうも今まで、チェロ組曲を神棚に上げて併んでばかりいたような気がする。

僕がはじめてこの曲に出合ったのは、チェロを始めて間もない高校生の頃。先輩に勧められてカザルスのLPを買い、ペータースの楽譜（ベッカー版）も買い、何となく音の少ない第1番から弾いてみたりした。カザルスの演奏からは、その録音の悪さをものともせず、先輩に教わったとおりに輝く後光を見ようとし、こぼれ出る肉声に興奮しようとし、奥深くにかくれているはずのキリストを探そうとしたりしたものだ。

このような経験はかなり長い間心の隅に引っかかっていたようである。師事した何人もの先生から具体的なことを教わってきたのもかわらず、また、何種類ものレコードを聴き、楽譜も集めてみたのにもかわらず。それらを通して知ったバッハに対する考え方は、まさに十人十色。はたして自分がこの曲を演奏するときには、具体的に何をどう目指したらいいのか、はっきりとしたイメージが固まらぬまま本番を迎える、しかも暗譜で弾く事への恐怖心ばかりが先に立つ始末。それでも演奏を積み重ねてゆけば、歳と共に後光の一本でも生えてくるのではないかと、

一生懸命神棚を併んでいた……ような気がするのだ。

ところがここ数年、ずいぶん考え方方が変わってきた。ビルスマやヨーヨー・マからの影響が大きいのだが、最近は演奏するときにバロック弓やガット弦を使ったり、調弦のピッチをA-415にしてみたりしている。そうすると弦の張力が弱まり柔らかな幅広い響きが得られるし、強くて太い音の代わりに弾力に富んだリズムや繊細なニュアンスを込めた音で弾けるのである。そのことでこの組曲の真の面白さがいろいろと見えてくるのだ。ひとつはポリフォニー。目に見える線（声部）、時々現れる線、隠された線などの絡み合いの面白さ、その交わりの中に生まれるハーモニーの色合いの変化の妙！もう一つはリズムの躍動。組曲に含まれる種々の舞曲を通して、この組曲は弾く者、聴く者の中にはっきりと、踊ること……体を動かし、ステップを踏み、踊り弾むことの喜びを思い起こさせてくれる。

僕は古楽器を扱う専門家ではないが、現代の楽器に工夫することによって、バッハの組曲を身体で感じることが楽しくなってきた。もう神様の御利益を待たずに。

### クロンベルク・マスタークラス報告(9月25日～10月2日)

加藤美千代(R-108)

クロンベルク・フェスティヴァルの第1回はカザルスを記念して1993年に開かれ、以来、奇数年にはフェスティヴァルとマスタークラス、偶数年にはマスタークラスだけが開かれています。私は第2回のフォイアマン、第3回のロストロボーヴィチを記念したフェスティヴァルに参加し、すっかり感激して今年はマスタークラスを聴講しました。マスタークラスは個人の進歩を目的に、ライン・ヘッセン州伯爵家のマルガリーテ妃によって創始され、クロンベルク国際室内楽アカデミーが

運営に当たっています。

今年はゲリンガス、グリーンハウス、ヘルマーソンのもとに、26カ国から106名の受講希望者が集まり、日本からも6名参加し、オーディションで受講者が決まりました。生まれも教育も環境も違う生徒達の集まりで、コンクールではなく、人材をつくることという仕事のための人選ですから、特徴のある生徒が選ばれたと思います。特にグリーンハウスさんは受講者以外にもセカンド・チャンスを作られ、30分のレッス

ンが受けられるようにされたのは、素敵なものでした。

9時30分からランチをはさんで18時30分までレッスンがぎっしり。一人の先生が6時間で27時間受け持たれ、一人の生徒は3回のレッスンを受けます。たとえば、ヘルマーソンの生徒は9名で、ハイドンを弾いた生徒には「用弓が固い、左腕の肘が下がる、左はメカニックに、右は弓の先まで全く自由に、体は自分の音の聞き手」と言われたので私は、自分に照らして（肘が下がるのは4指が短いとい

ファクターのため) どんな練習の示唆をされるのだろうと思って聞きました。次に、ショスタコーヴィチのラルゴとアレグレットのレッスンを受けた生徒は13才、ピアニストも同年齢で、「譜面を注意深く読んでいるね、もう少しテンポを早く、頭でなく自然に従つて印象を大切に、またノーサウンド(何もない音)にならないように」と時には一緒に弾いて、ヘルマーソンさんは楽し気。

ゲリンガスの生徒でプロコフィエフを弾いた生徒には、「これを作曲したとき、ノーマルな生活ではなかったのだから、短い音符、タカタカタ……は(と弓を銃のように構えて)優美に弾かないように」……

マスタークラスが終わりに近づいた日、グリーンハウスさんはこんな言葉を残されました。「人生はジグソーパズルのようなもので、小さい断片が集まってひとつの絵となる。106人の生

徒がいれば皆、自分の問題を持っています。私はいつも自分の見地を持ってきました。人生の経験として50年、60年、それ(チェロ)を楽しむだろうから、何かを見つけて欲しい。ナーヴアスにならないで」

最終日には9名の生徒の演奏が披露され、そのうち2名(ロシア、韓国)がヘッセン伯賞(10000DM)を受けました。

## ● 情報コーナー ●

### 【本】

#### ★新しいチェロ奏法【身体に優しいチェロ演奏のために】

著者 ヴィクター・セイザー

訳者 三木雅俊

発行 音楽の友社

定価 2000円(税別)

チェリストにとっての職業病ともいいくつかの身体的不具合は、堤剛会長が日本チェロ協会の目的のひとつに据えようとしたくらい大事なことと思われます。実は、この著者ではありませんが、そのような研究をしている人がミネソタにもいて、その方の研究を日本に紹介しようという話もありました。「新しいチェロ奏法」の著者とは同一人物ではありませんが、アメリカではかなり研究をしようという動きがあることがわかります。この本は出版されたあと、しばらくインターネットで話題になっていました。チェロ奏法に関して特に身体的なメカニズムに関して書かれた本では、日本でははじめてかもしれません。(他にあるようでしたら、事務局までお知らせください。紹介したいので……)

\* ヴィクター・セイザー氏本人から、日本へ行って講義をしたいという手紙が来ています。現状ではチェロ協会のみでお呼びするのは経済的に不可能ですが、会員からのご意見をお聴かせください。

\*また、この本を読んでの感想を募集します。次号の会報に掲載いたします。

\*

#### ★EASY STUDY vol.32 チェロが弾ける本(11月下旬発行予定)

著者 山本祐ノ介

発行 ヤマハミュージックメディア

定価 1200円(税別)

従来のメソードにとらわれず、チェロを弾いてみたい人のための初心者向け教則本。楽器の構え方、調整等からテーピングの方法、ポジションの作り方等、より具体的な解説を重視した読み物)

<目次>

##### Step1 演奏する前の準備

1 チェロの構造と各部の名称、2 エンドピンののばし方、3 弓の各部の名称、4 弓の用意、5 松脂(まつやに)のぬり方、6 チューニングについて、7 指板にテープを貼ろう、8 楽器の構え方、9 構えのチェックポイント 10 弓の持ち方、11 弓と弦の接点

##### Step2 音を出してみよう

1 基礎楽点とチェロの楽譜、2 開放弦を弾いてみよう、3 音に変化をつけよう

#### Step3 左手の使い方

1 指板上の音、2 フォーム(手の形)、3 ポジション(手の位置)、4 ポジションチェンジ

#### Step4 名曲で練習してみよう

1 サン=サーンス/白鳥、2 ブラームス/ソナタ1番を弾こう、3 バッハ1番/プレリュードを弾こう

#### Step5 トラブル対処法と中上級者への一歩

1 左手のトラブル 2 右手のトラブル 3 その他のテクニック

#### Step6 レパートリー集(ピアノ伴奏付きレパートリー)

トロイメライ/白鳥/歌の翼に/シチリアーノ/愛のあいさつ

\*

お求めは、お近くのヤマハ特約楽器店、および書店にてご注文ください。

### 【コンサート】

#### ★成嶋志保、Rouven Schirmerデュオ・リサイタル

日 時 ● 1999年2月3日(水) 午後7時開演

場 所 ● お茶ノ水スクエア内ヴォリーズホール

演奏曲目 ● ドビュッシー: チェロソナタ/ブラームス: チェロソナタ 第1番 ホ短調/シューマン: 幻想小曲集/ショスタコーヴィチ: チェロソナタ

演奏者プロフィール

成嶋志保

4歳よりピアノを始める。92年パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学。欧州各地で研鑽。98年4月同音楽院コンサートディスト・コースの修了試験に合格。99年1月同音楽院でソロ・リサイタルの予定。同じく6月には新潟交響楽団定期演奏会で共演の予定。

ルーベン・シルマー

1976年12月生れ、6歳よりチェロを始める。1987年よりハノーヴァー音楽大学で学び、現在はベルリン芸術大学にてウォルフガング・ベトヒャー教授に師事。永年国立ドイツ青少年オーケストラの主席チェリストとして活躍、現在はヨーロッパ連合青少年オーケストラに所属する他、室内楽、ソロ活動を活発に行っている。

鈴木 誠(R-142)

\*

#### ★第20回 松波恵子 門下生チェロのお稽古の会

日 時 ● 1998年12月13日(日) 13:00 開演

場 所 ● カザルスホール

入場無料

お問い合わせ ● 兵藤 0471-82-7211 松波 03-3708-2880

## ● 情報コーナー ●

一年に一度ずつ開いてきた弟子たちの会が20回目を迎えることになりました。今年は奮発してカザルスホールで開催することにし、また、以前教えていた人たちにも声をかけ、たくさんの人たちが出演することになりました。全員が一人ずつ演奏し、その後16人、10人、32人のアンサンブルをやりますので、全部で4時間ほどかかる予定ですが、皆の日々の努力の結果をお楽しみいただけたら嬉しいです

松波 恵子  
出演 井上貴信、石井達彦、澤嶋侑太、塩沢結衣、中西哲人、丹羽あいり、高木秀直、白尾佳奈、兵藤緑、奥田なな子、中実穂、平賀香奈子、三宅依子、北島愛季、堀沙也香、榎原茉莉、巖裕美子、新井幸子、上法閑、勇氣貴弘  
OB 林詩乃、植木昭雄、江口心一、遠藤健、木村美樹子、渋谷陽子、中田有、富永佐恵子、水谷川優子、向山佳絵子

\*

★ルイス・クラレット チェロリサイタル

日 時●1999年2月24日(水) 19:00開演  
場 所●カザルスホール  
主 催●カザルスホール  
協 賛●(株)オートバックス・セブン  
出 演●ルイス・クラレット(チェロ) 野平一郎(ピアノ)  
演奏曲●シーマン: アダージョとアレグロ／ショスタコーヴィチ: チェロソナタニ短調作品40／ボッケリーニ: チェロソナタイ長調(2楽章版)／グラナドス: 歌劇「ゴイエスカス」より 間奏曲／ヒナステラ: バンペアナ 第2番 作品21／カサド: 親愛の言葉

### 【コンクール】

★1999年 第9回日本室内楽コンクール

日 時●第1次予選 1999年5月30日(日)  
第2次予選 1999年6月5日(土)  
本 選 1999年6月6日(日)  
実施部門●ヴァイオリンとピアノ、ヴィオラとピアノ、チェロとピアノ  
会 場●パリオホール  
主 催●財団法人 日本音楽教育文化振興会  
審査委員●委員長 菅沼準二  
委 員 久合田緑、小林健次、小森谷泉、沢和樹、  
店主眞積、田村宏、坪田昭三、野田暉行、  
堀了介、松波恵子  
受付期間●1999年4月1日~4月30日  
問合せ、申込●113-0033 東京都文京区本郷1-28-4  
アビラック・ミュージック・コミュニティセンター内 財団法人 日本音楽教育文化振興会  
日本室内楽コンクール運営委員会  
※ チェロ協会事務局にも、コンクールの要項があります。

★第3回 インターンナショナル チェロ フェスティヴァル & コンペティション(クリストチャーチ ニュージーランド)

日 時●  
1次予選 1999年7月20日~21日  
Great Hall, Art Centre  
2次予選 1999年7月22日~23日  
Great Hall, Art Centre  
本 選 1999年7月24日  
with Christchurch Symphony Orchestra  
Town Hall Auditorium  
審査委員長●Mstislav Rostropovich(Russia)  
審査委員●Frans Helmerson(Sweden/Germany), Philippe

Muller(France), Natalia Pavlutskaya(Russia),  
Nathan waks(Australia), Alexander Ivashkin  
(Russia)

申込期限●1999年4月30日

年齢制限●1999年7月25日以降30才以下

賞 金●第1位 NZ\$8,000 第2位 NZ\$4,000 第3位 NZ\$2,000 他にニュージーランド交響楽団との共演、ナクソスレーベルでの録音

※ チェロ協会事務局にコンクールの応募要項が送られてきます。必要な方は、お問い合わせください。ファックスでも可。

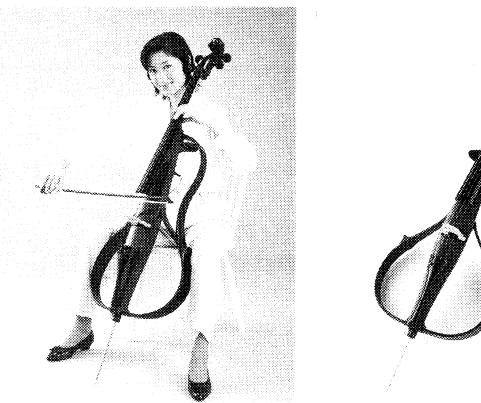
### 【楽器】

★サイレント・チェロ

ヤマハからサイレント楽器シリーズの新製品として、ヤマハサイレントチェロ(SVC-100)が発売になりました(10月1日)。アコースティックチェロの音色や演奏感をそのままに、静謐性を併せ持つおり、ヘッドフォンやスピーカーに接続して演奏が楽しめます。共鳴するボディを無くしたことと、音量は10分の1。音エネルギーは100分の1になっているそうです。サイレントヴァイオリンがヒットしたことと、チェロに対する要望が多くなっていたことを受けて発売することになりました。

今後、独習ビデオなども発売される見込み。主な仕様は以下の通り。価格は、サイレントチェロが19800円、ケース、弓などがセットになったサイレントチェロセットが24800円。

材 質●棹、駒: メイプル  
胴: スプルース  
指板、糸巻き: エボニー  
フレーム: 成型合板  
センサー●ピエゾピックアップ  
電子回路●DSP(3種類のリバーブ)内蔵、AUXイン/ボリューム付き  
ヘッドフォン出力、ラインアウト、マスターボリューム  
電 源●単3電池2本およびACアダプター入力  
(本体)  
寸法、重量●1260mm(L)×430mm(W)×242mm(D)、3,500g  
そ の 他●全弦にチューニングジャスターを装着  
付 属 品●SVC-100  
駒、胸当て/単3電池2本  
ステレオヘッドフォン  
オーディオケーブル  
SVC-100S  
駒、胸当て/単3電池2本  
ステレオヘッドフォン  
オーディオケーブル



## 事務局から

急に寒くなってきました。今年の10月の東京はチエロラッシュで、どのコンサートに行こうか迷った方也有ったでしょう。たとえば、10月22日は、墨田でヨーヨー・マが協奏曲を弾けば、サントリーホールでは堤剛さんのリサイタル、カザルスホールではイッサーリスがリサイタル。翌日は、紀尾井でイッサーリスが協奏曲、カザルスは山本祐ノ介、サントリーは堤剛といった具合。何でこんなに重なるのでしょうか、調整は出来ないのか、という声が聞こえてきそうですが、1年以上前にスケジュールを組んだときにはよその情報は分らないというのが現実です。

もう一つ、全国的にというより全世界的にチエロのコンサートの状況は厳しいようです。この間、売り込みをかねて来日していたアメリカの大手マネージャーも、「チエロ…」などとみんなが逃げていく」と言っていました。チエロはチエロ分の旅費のコストがかかる割にお客様が少ないというのがどうも定説になりつつあるようで困ったものです。

チエロ協会も何か役に立てればと思うのですが、なかなか思うようにはいきません。まず、多忙の合間に縫って行っている協会の事務作業などにもう少し時間が割ければと思うのですが……。でも、少しずつきちんとしていきたいと思っています。会員の皆様のボランティア的なご協力をお願いしたいと思います。 日本チエロ協会 事務局

### マスタークラスの開催について

#### ルイス・クラレット チエロマスタークラスの受講生の募集

日 時：1999年2月26日(金)19時から  
場 所：ヴォーリズホール(お茶の水スクエア)

主 催：日本チエロ協会、カザルスホール  
問合せ：日本チエロ協会事務局

バルセロナのルイス・クラレットのマスタークラスを、カザルスホールと共に開催します。クラレット氏はパブロ・カザルスの弟で

#### <会報スケジュール>

	原稿・情報〆切	発送作業	掲載情報
99年3月号	99年1月29日(金)	2月27日(土)	99年3月6日(土)以降
99年6月号	99年4月30日(金)	5月29日(土)	99年6月5日(土)以降
99年9月号	99年7月30日(金)	8月28日(土)	99年9月4日(土)以降

### 編集後記

早いもので、設立総会から1年がたちました。その間に実現できたことを考えると自慢はできませんが、とりあえずチエロ仲間が増え、可能性が広がっていることを感じます。来年はカザルスホールでシタルケルのマスタークラス(カザルスホールと共に)ができそうです。

前号準備の8月はじめから11月はじめまで、カザルスホールの方の仕事が過激に忙しく、事務局の仕事にあまり手がつかなかったことを、まずははじめにお詫びいたします。しかし、とんでもなく大変だった……。何人の会員の方や入会希望の方からおしかりを受けましたがご勘弁ください。12月初めまでに少し事務作業を挽回しようかと思います。

15:00~18:00

場所：カザルスホール リハーサル室  
(お茶の水スクエアC館地下3階)

担当：倉田澄子

お問い合わせ、申込は  
日本チエロ協会事務局

### 原稿募集

次号(2月末発行)では 11月28日に神戸で行われる「1000人のチエロ」についての記事を掲載したいと思います。実行委員会の松本さんからは、「10月末に「参加申し込みが1000人を越えました」という報告がありました。かなりの盛り上がりが期待できそうです。実行委員会にも依頼していますが、参加された方で、感想、報告、疑問など、何でも結構ですので感想などの声をお寄せください。原稿は、原稿用紙、ファックス、メールどれでも結構です。

### 情報の募集

コンサート、セミナー、マスタークラス、本、ビデオ、CD等、チエロに関するどのような情報でもかまいませんから、お寄せください。この情報コーナーで紹介します。みなさんの会報ですから、みなさんの声や情報によって作られます。そうでないと情報がカザルス周りに偏ってしまいますのでよろしくお願いいたします。

### 会費納入のお願い

11月24日で、日本チエロ協会が出来てからちょうど1年を迎えるました。昨年の設立総会までに入会された方の会費の期限は12月末までです。恐縮ですが、12月までに1998年度の会費の納入をお願いいたします。そのご入会の方は、入会月の翌月末までが年度会費の有効期限ですので、それまでに会費の納入をお願いできますと幸甚です。

会費の納入は、以下の日本チエロ協会の口座に会員番号とお名前を表記の上お振り込みください。

富士銀行 お茶の水支店

普通預金 1631727

住友銀行 御茶の水支店

普通預金 848324

いずれも、日本チエロ協会の口座です。また、現金書留などでも結構です。

住所は

101-0062 千代田区神田駿河台1-6  
お茶の水スクエアA館 カザルスホール企画室  
アワフタクト内 日本チエロ協会  
Tel 03-3295-7586  
Fax 03-3293-5257

### 日本チエロ協会会報 JCS NEWS 第5号

[発行日] 1998年11月27日

[発行所] 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台

1-6 お茶の水スクエアA館

カザルスホール企画室・アワフタクト内

日本チエロ協会

Tel 03-3295-7586 Fax 03-3293-5257

Mail QGA01776@nifty.ne.jp

[発行人] 堤 刚

[編集] 日本チエロ協会事務局

[編集協力] リュウカンパニー